

## ウミガメの現状

皆さんは大崎町の海岸が、ウミガメの産卵地だということを知っていますか。

ウミガメは海に生息する数少ない爬虫類の一種で、世界に7種しかいません。近年、乱獲や環境汚染等が影響し、世界的にその数は減少しており、ウミガメの7種すべてが、国際自然保護連合（IUCN）が作成したレッドリストに掲載され、絶滅が危惧されている生物です。

鹿児島県は国内で最もウミガメが産卵に訪れる県です。昨年は、1年間で2731頭が上陸し、1718頭が産卵しました。また、『ウミガメ保護条例』を制定し県全体で、保護活動を行っています。

本町でも、日南海岸国定公園内の約7キロに及ぶ海岸に昨年、48頭が上陸し、32頭が産卵しました。

そんな絶滅が危ぶまれるウミガメの保護活動を行っている『ウミガメ保護監視員』さんの2名にスポットを当て、特集したいと思います。

# ウミガメの 守り人

## どんなウミガメがくる？

本町に訪れるウミガメは、その全てが『アカウミガメ』です。アカウミガメは甲羅の長さが約1m、頭部が他のウミガメより大きいのが特徴で5月から8月ごろにかけて、日本各地の海岸で産卵を行います。卵は砂の中に約100個ほど産みます。日本の水族館で見られるウミガメのほとんどが本種です。

## ウミガメの産卵行動

ウミガメはどのように海岸に上がり、卵を産むのでしょうか。ウミガメの産卵行動について、紹介したいと思います。

### 【STEP1: 上陸】

暗くなつて海岸に近づくウミガメですが、すぐには上陸せず、安全が確認できたら、産卵場所を探します。

### 【STEP2: 穴掘り】

産卵場所を決めると後ろ足を使い直径30センチ、深さ60センチ程度の穴を掘ります。

### 【STEP3: 産卵】

穴掘りが終わると産卵をはじめ、約20分ほどで生み終わります。卵の色は白色でピンポン玉に似ています。

### 【STEP4: 穴埋め】

産卵が終わると後ろ足を交互に使い穴に砂を入れていき、砂がたまると砂を押し固めていきます。この行動を何回か繰り返します。

### 【STEP5: 帰海】

卵が完全に埋まったら、産卵した場所をカモフラージュしながらしばらく進み、それから海へ帰っていきます。



【H26年に産卵のため上陸したアカウミガメ】